

短期予報解説資料 2026年1月14日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 急速に発達した低気圧がオホーツク海を北北東進。高気圧が対馬海峡付近を東南東に移動、日本付近は西高東低の気圧配置となり、沿海州沿岸では日本海の筋状雲との離岸距離が短く、北～東日本日本海側を中心に、3時間3～15cmの降雪を観測し、北～東日本では、16m/s前後の風を観測し、しけの所がある。

② 500hPa 5340m付近のトラフに対応した低気圧が華北を東南東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の対馬海峡付近の高気圧が

15日にかけて日本の南へ進み、西高東低の気圧配置は次第に解消するが寒気が残り、北～東日本日本海側を中心に降雪が持続する。北～東日本日本海側を中心に、降雪による交通障害に注意し、着雪、なだれにも注意。1項②の華北の低気圧は、15日朝までに日本海西部へ進み前線が発生する。その後、16日にかけて、発達しながら日本の東へ進み、前線が北～西日本を通過する。西高東低の気圧配置や低気圧や前線と日本の南の高気圧との間で気圧の傾きが急となる影響で、雪を伴い強い風が吹き、しける所がある。北～東日本日本海側を中心に15日にかけて、暴風、暴風雪、高波に警戒・注意し、北～西日本では15日にかけて、強風、風雪、高波に注意。前線や低気圧に向かう下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～東日本では15日にかけて、西日本では15日は、落雷、竜巻などの激しい突風に注意し、降ひょう、急な強い雨に注意。また、850hPaで平年差5°C以上の暖気の流入し降水が広がる。このため、北～西日本の多雪地では15日にかけて、なだれにも注意。北～東日本日本海側の地盤が緩んでいる地域では15日は、土砂災害に注意。

② 2項①の低気圧と前線が日本の東へ進んだ後、日本付近は西高東低の気圧配置となる。16日後半は、黄海付近で発生する高気圧が日本付近へ移動し、西高東低の気圧配置は次第に解消する。500hPa 5460m付近で-27°C以下の寒気を伴うトラフが、16日はじめに北～東日本を通過し、日本海では北陸地方にのびる気圧の谷が形成される。西高東低の気圧配置の影響で、降雪となる所がある。北日本と北陸地方では、降雪による交通障害、着雪、なだれに留意。西高東低の気圧配置となり気圧の傾きが急となるため、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北～東日本では16日は、強風、風雪、高波に注意。気圧の谷や上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北～東日本では16日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(18時からの24時間)：東北30、北海道25、北陸15cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・北陸5、その他広い範囲で3～4m。④ 高潮(明日まで)：北陸地方では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図